

Support

5. 学習支援事業について

学習支援事業は、学生および院生を対象に、幅広い知識や教養、マナー、コミュニケーション力などを身に付けたり、卒業生やプロの教員から実践を学んだり、教職に対する準備を行い、心構えを築いたりするために企画した課外活動の講座である。「教職キャリア形成支援講座」として平成22年度は以下の19講座を開催した。

表1 平成22年度に開催した教職キャリア形成支援講座

シリーズ名	講座名	日程	時間	講師
CA(キャビンアテンダント)から学ぶ 社会人基礎講習	接遇・マナー編	2010年10月20日 (水)	14:50~17:50	ANAラーニング
	聴くスキル編	2010年10月25日 (月)	16:30~19:30	ANAラーニング
	話すスキル編	2010年11月9日 (火)	16:30~19:30	ANAラーニング
	総合マナー講習編	2010年11月12日 (金)	16:30~19:30	JALアカデミー
	マナー&コミュニケーション講座 Part1:話すスキル編	2011年1月26日 (水)	16:30~19:30	ANAラーニング
	マナー&コミュニケーション講座 Part2:聴くスキル編	2011年2月4日 (金)	16:30~19:30	ANAラーニング
充実した大学生活 をおくる	文章講座	2010年12月1日 (水)	14:50~17:50	ベネッセコーポレーション
	時事講座①少子高齢化について考える	2010年11月29日 (月)	16:30~18:00	ベネッセコーポレーション
	時事講座②情報化社会について考える	2010年12月3日 (金)	16:30~18:00	ベネッセコーポレーション
	時事講座③社会貢献について考える	2010年12月6日 (月)	16:30~18:00	ベネッセコーポレーション
卒業生・修了生から学ぶ (ようこそ先輩)	子どもが夢中になるクラフト講座 —にじいろ工作(万華鏡)—	2010年11月17日 (水)	14:50~16:20	NPO法人 生涯学習サポート兵庫 菅野将志(修了生)
	子どもたちに幸せの花を咲かせたい	2010年12月15日 (水)	16:30~18:30	「花ふぶき一座」座長 宮田若奈(卒業生)
在学生から学ぶ	心と心が通い合うコミュニケーションを 求めて	2011年1月29日 (土)	13:10~14:40	本学大学院生:五百住満(大学准教授)・ 大岡妙子(小学校教諭)
	教室におけるUnnatural Communication —伝わらないことからすべてが始まる—	2011年1月29日 (土)	14:50~16:20	本学大学院生:中西一彦(大学准教授)・ 河合俊成(中学校・高等学校教諭)
教職準備講座	新任教師にとって大切なこと	2010年12月8日 (水)	16:30~18:00	教育サポーター 仲島正教
	新人教師のためのストレスマネジメント —バーンアウトしないために—	2010年12月13日 (月)	16:30~18:00	本学教授 新井肇
	あ~よかったな先生になって	2011年1月19日 (水)	14:50~16:20	教育サポーター 仲島正教
	子どもの可能性を引き出す —教師のためのコーチング入門—	2011年1月28日 (金)	16:30~18:00	PHP上級認定コーチ 國弘隆子
	教育現場にも活かせる仕事術講座 —問題解決力の育成—	2011年1月21日 (金)	16:30~19:30	株式会社ディスコ

「CA(キャビンアテンダント)から学ぶ社会人基礎講習」では、元キャビンアテンダントの講師より、基本的な接遇やマナー、コミュニケーションのスキルについて学んだ。若者のコミュニケーション能力不足が叫ばれており、また教職や就労の現場において、もっとも基本的で重要な能力の一つと言われている。かつては就職してから研修の一環として学ぶ場もあったが、近年では働き始める段階ですでに身

に付けているべきものとして考えられているようである。そのような状況のなかで、学生も自分のコミュニケーション能力やマナーについて不安に思っていることも多い。授業のなかでは、なかなかはっきりと定義して身に付けられるスキルではないため、課外活動の形で支援することにした。

表2 各講座の定員、申込人数、参加人数、アンケート回収数、性別、学年

シリーズ名	講座名	定員	申込人数	参加人数	アンケート回収数	性別		学年												
						男	女	学部				修士			教職大学院			留学生 聴講生		
								1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	1年	2年	3年			
CA(キャビンアテンダント)から学ぶ社会人基礎講習	接遇・マナー編	20	12	9	9	2	7	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	
	聴くスキル編	20	20	15	15	2	13	1	4	2	1	2	1	0	2	0	2	0	0	
	話すスキル編	20	26	21	21	5	16	4	7	3	2	2	0	0	1	0	2	0	0	
	総合マナー講習編	20	25	15	15	1	14	1	4	4	4	0	0	0	1	1	0	0	0	
	マナー&コミュニケーション講座 Part1:話すスキル編	20	21	13	11	1	10	0	3	2	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0
	マナー&コミュニケーション講座 Part2:聴くスキル編	20	19	16	15	2	13	0	8	3	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
小計		120	123	89	86	13	73	6	31	15	11	7	5	0	4	1	6	0	0	
充実した大学生活をおくる	文章講座	30	16	15	15	4	11	0	4	6	1	3	0	0	1	0	0	0	0	
	時事講座①少子高齢化について考える	30	12	8	8	2	6	0	0	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
	時事講座②情報化社会について考える	30	8	7	7	1	6	0	0	5	0	0	0	0	1	0	1	0	0	
	時事講座③社会貢献について考える	30	15	10	10	4	6	0	2	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
小計		120	51	40	40	11	29	0	6	22	1	3	0	0	7	0	1	0	0	
卒業生・修了生から学ぶ(ようこそ先輩)	子どもが夢中になるクラフト講座 —にじいろ工作(万華鏡)—	25	16	12	12	3	9	0	1	3	4	0	1	1	0	0	0	0	2	
	子どもたちに幸せの花を咲かせたい	25	24	21	20	10	10	9	3	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	
小計		50	40	33	32	13	19	9	4	7	7	0	1	1	1	0	0	0	2	
在学生から学ぶ	心と心が通い合うコミュニケーションを求めて	15	8	8	8	3	5	0	0	1	1	3	3	0	0	0	0	0	0	
	教室におけるUnnatural Communication —伝わらないことからすべてが始まる—	15	10	10	10	4	6	0	1	2	1	3	3	0	0	0	0	0	0	
小計		30	18	18	18	7	11	0	1	3	2	6	6	0	0	0	0	0	0	
教職準備講座	新任教師にとって大切なこと	30	32	28	26	6	20	0	1	8	11	0	1	2	1	0	2	0	0	
	新人教師のためのストレスマネジメント —バーンアウトしないために—	50	15	17	15	10	5	3	0	4	2	0	1	2	1	1	1	0	0	
	あ～よかったな先生になって	30	30	17	17	4	13	2	6	4	1	0	1	2	1	0	0	0	0	
	子どもの可能性を引き出す —教師のためのコーチング入門—	20	21	14	14	4	10	0	3	4	2	0	4	0	1	0	0	0	0	
	教育現場にも活かせる仕事術講座 —問題解決力の育成—	20	17	12	12	1	11	1	1	5	1	0	4	0	0	0	0	0	0	
小計		150	115	88	84	25	59	6	11	25	17	0	11	6	4	1	3	0	0	
合計		470	347	268	260	69	191	21	53	72	38	16	23	7	16	2	10	2	0	

「充実した大学生活をおくる」では、ベネッセコーポレーションによる文章講座と時事講座を開催した。文章講座では、文章の基礎を学び、自己表現と伝達の重要性を理解してもらった。時事講座では少子高齢化、情報化社会、社会貢献という最低限知っておかねばならない時事問題についての講義と、グループディスカッションが行われた。

「卒業生・修了生から学ぶ」では、修了生と卒業生を講師に迎え、実践的な内容を盛り込んだ講義を行った。NPO 法人生涯学習サポート兵庫で働く菅野将志さん

には、万華鏡作りを指導していただいた。学園祭の直前ということもあり、参加者が少なかったのは残念であったが、講習の導入部でアイスブレイキングをやらせ、雰囲気打ち解けたとともに、学生も目的のクラフト工作の技術以外にも、ファシリテーション力を付けることができたのではないかと思う。卒業生の宮田若菜さんは、現在宮崎で「花ふぶき一座」というちんどん屋の座長をされている。懐かしい校舎で大学時代の自分を振り返りながら、現在の地元の子どもたちへの関わりについて話をされた。つねに前向きに生きる宮田さんの姿勢は、学生にとっても励みになったと思う。

「在学生から学ぶ」は、基礎教育学系・渡邊隆信准教授の大学院授業の一環として開催されたものである。もちろんゼミに関係のない学生の参加も可能である。大学の教員が積極的に総合教職キャリアセンター設置準備室を利用して、授業ではできないようなことを提案・企画することも、教職キャリア形成支援事業の一つの方向性として考えられる。また、現職教員が多く学ぶ本学において、学部生と大学院生を繋ぐことも重要であり、このような企画を今後も継続して行っていきたい。

「教職準備講座」では、教育サポーターの仲島正教先生による2回の講演会を開催した。小学校教員として長らく働いてきた経験から出ることばには説得力があり、感動を引き起こすものであった。とくに、もう少しで卒業し、4月から新任教員として早速現場に出ることになっている学部4年生や修士2年生の学生にとっては、大きな励みになり、背中を押してくれる講演会になったようであった。総合教職キャリアセンター設置準備室の新井教授には、バーンアウトをテーマに講演を行ってもらった。教職という仕事に夢と希望を持ちながらも、一方ではさまざまな問題や精神的な苦勞に悩まされるのではないかという不安も併せ持っている学生に、とにかく仲間を作り、問題を共有し、一人で悩まないでほしいという話があった。國弘隆子先生にはコーチングについて、実践的な指導を行ってもらった。コーチングについてほとんど知識がない学生も多く、ただいたいどのようなものか分かっているが、なかなか実践できないと考えていた受講生などもおり、少ない時間で、かなり凝縮して学ぶことになった。今後の学生生活や仕事のなかで、コーチングの技術を役立てることができると思う。株式会社ディスコには、問題解決力ということで講義とグループワークを行ってもらった。講座内容は基本的に教職のみを対象としていなかったため、学生のなかには戸惑いもあったようであるが、視野を教職に固定せずに視野を広げ、いろいろな立場から物事を見て判断できるような技量を付けてもらうことも教職キャリア形成支援事業の目的の一つである。

以上、本年度の講座内容について簡単に記述した。次に講座終了後に参加者に書いてもらったアンケートをもとに、講座全体について振り返ってみたい。

1. 講座の周知と参加状況

各講座は大学のウェブサイト、総合教職キャリアセンター設置準備室からの学生への一斉メール、講義での告知、チラシ配布等によって周知した。申込は、チラシに付けた申込書を、共通講義棟と就職支援室前に備え付けたボックスに入れるか、メールで行った。

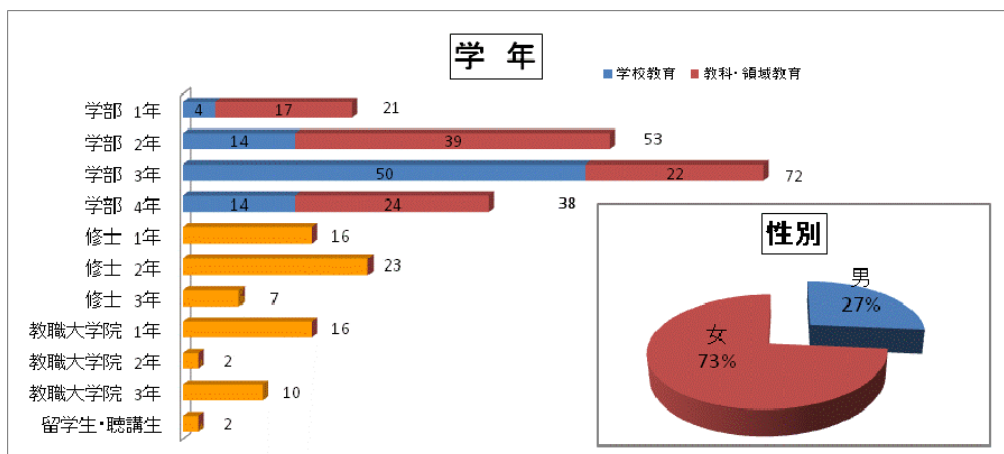


図1 学年別アンケート回収数（合計260名）と性別構成

後期から始めたこともあり、また、大学から大量のメールが学生に行くため講座の情報が行き届かなかつたり、チラシを配布しても興味を示さない学生もいるなど、とくに前半の講座の周知には苦勞をともなつたが、後半ではリピーターの学生が増え、また教員からの支援もあり、定員を超える講座も出るようになった。

チラシも、授業内や共通講義棟で配布したものに関しては効果が見られた。しかしキャリア形成支援講座の時間が決定したあとに大学の行事やゼミが入るなど、予定の重複によって当日欠席者が出ることもあり、出席率が非常に低くなってしまった講座もあった。

参加学生の傾向としては学部3年生がもっとも多く、次いで学部2年生、学部4年生となった。学部1年生には必修授業内での周知を行ったが、授業やクラブ活動、アルバイト等で時間的に余裕がないことも考えられるが、おそらく就職や将来に関することが、まだ先のこととして捉えられているのではないかと想定される。修士課程や教職大学院課程の大学院生も参加しており、講座によっては現職教員の参加も見られた。

今後の課題としては、申込の手続きをウェブ上で一元化すること、テレビ画面やラック等を設置して周知を広めていくこと、行事の重複を避けるために各部署や教員との連携を進めること、学内教員や職員の協力を得て企画や周知に参加してもらうことなどが挙げられる。

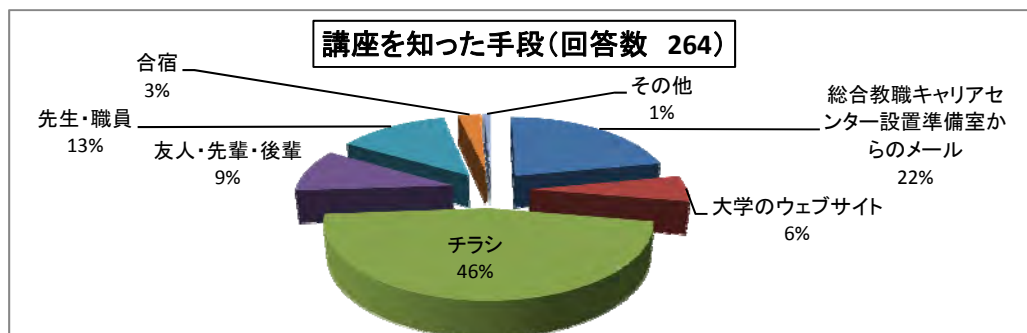


図2 講座を知った手段（複数回答を有効とした）

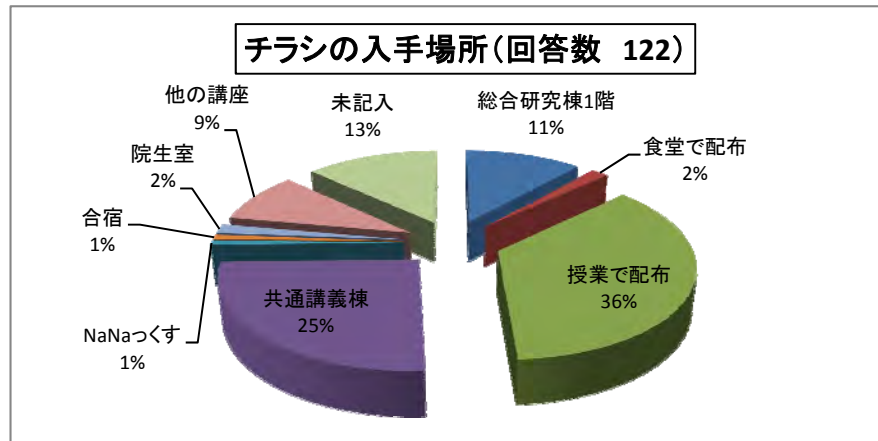


図3 チラシの入手場所 (複数回答を有効とした)

2. 講座への参加の動機および満足度

各講座の終了後、参加者には講座に参加した動機、満足度や感想、講座の時間に対する希望、今後開催して欲しい講座などについて聞いた。

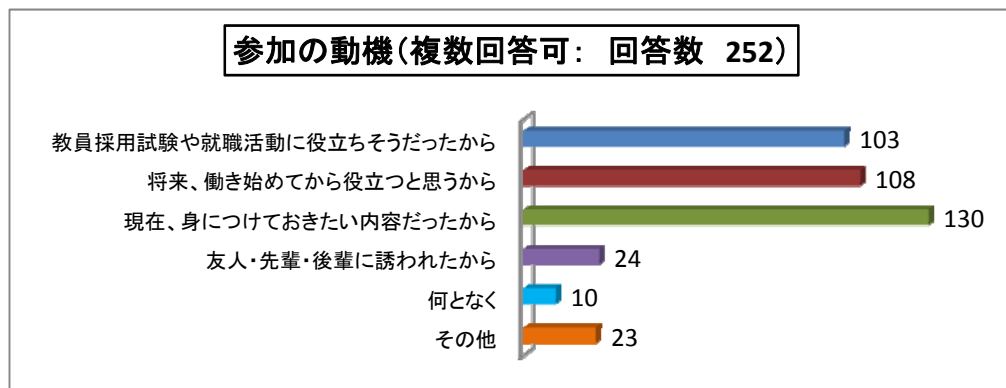


図4 参加の動機 (全講座)

参加の動機としては「現在、身につけておきたい内容だったから」が「教員採用試験や就職活動に役立つそうだったから」、「将来、働き始めてから役立つと思うから」という動機よりも若干多かった。しかし全体としては、この3項目が講座参加へのおもな動機となっており、自主的に学ぼうとする参加者の意思を見ることができる。ただし参加の動機はシリーズによりかなり異なっており、マナーやコミュニケーション力向上を目指す「CA から学ぶ社会人基礎講習」と、「教職準備講座」シリーズでは、「現在身に付けておきたい」が多く、一方、教員の協力があつた「卒業生・修了生から学ぶ」シリーズでは、教員や友人・先輩・後輩に誘われての参加が多かった。

講座の満足度に関しては、講座内容や講師によって若干の差が出たが、全体的には高い満足度を示している。

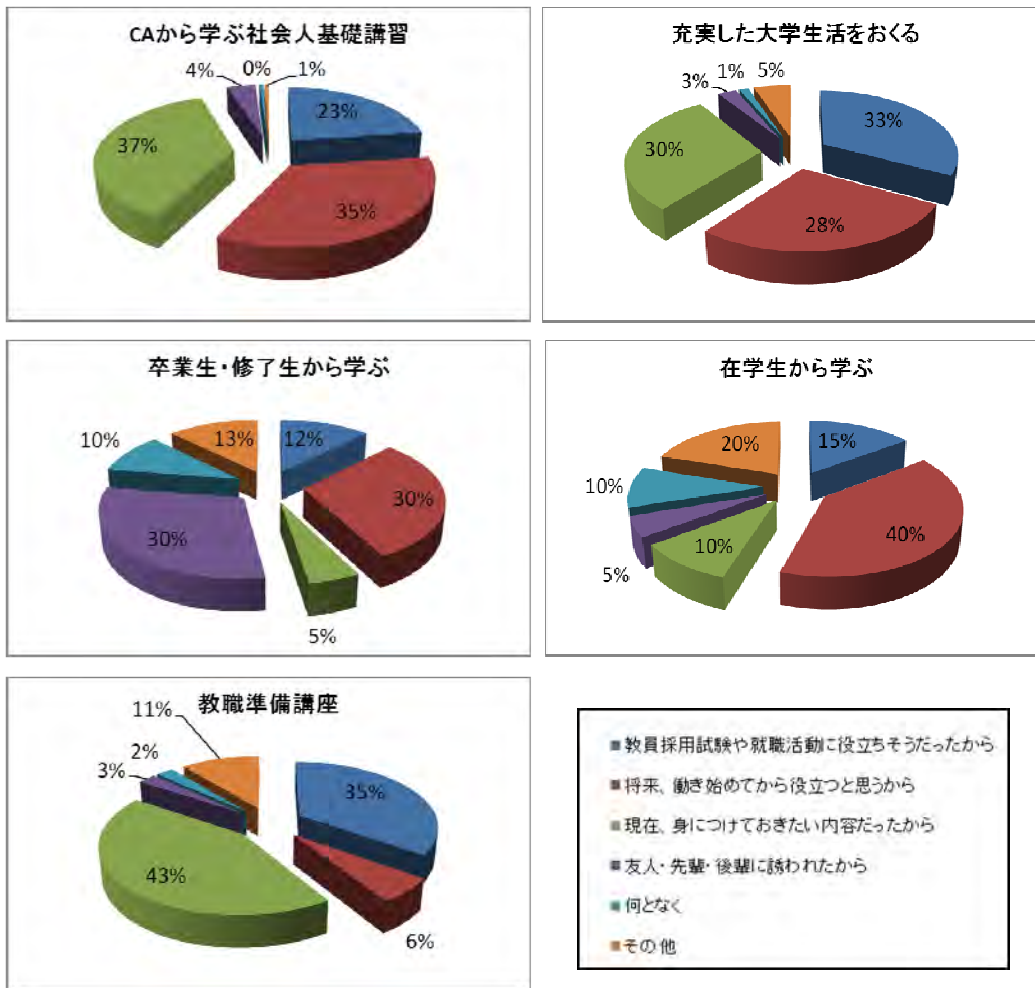


図5 参加の動機（シリーズごと）

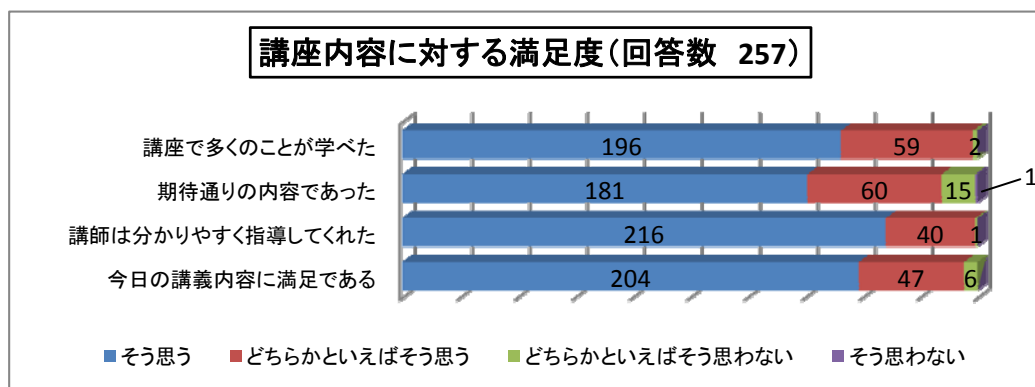


図6 講座内容に対する満足度（全講座）

全体的に言えることは、形式の決まった出張講座のようなものよりも、講師の情熱やプロ意識が直に伝わるような講座の満足度が高いと言える。ある講座では、シリーズが進むにつれ参加メンバーが固定し、講座の雰囲気も和やかになってきた。また講師の熱意を感じることができ、参加者と講師との信頼関係も築かれていった。もちろんこのようなことがつねに生じるわけではない。例えば別の講座の自由記述感想欄に、グループディスカッションの際のメンバーへの不満が書かれていたこと

があった。知らない者同士、あるいは逆に毎日顔を合わせているメンバーとディスカッションすることが、学生にとって難しいことは理解できる。たんに学生に話し合わせるだけではなく、講師のファシリテーション力によって、学生のコミュニケーション力を向上させることも重要となろう。

アンケートの「期待通りの内容であった」という項目では、講座を知ったときのタイトルや内容紹介が満足度に作用することが考えられるため、企画段階で講座内容をあらかじめきちんと把握し、また本学学生の特長（他大学に比べ、学生、とくに現職教員は、自分が（いずれ）教える立場であるという視点から講師や講義内容を評価する部分があると思われる）やニーズを理解して、先方に伝え、事前に協議しておくことが必要であると感じた。

3. 就職・就職活動との関連

本学は教員養成系大学であるが、すべての学生が教職を希望しているわけではない。講座参加学生（学部生のみ）の希望進路は図7のようになっており、およそ8割強が教職志望である。この数値は実際の進路状況より若干多めである（平成21年度卒業者で教員が67.1%、教員以外の就職が15.6%、大学院進学が8.1%）。

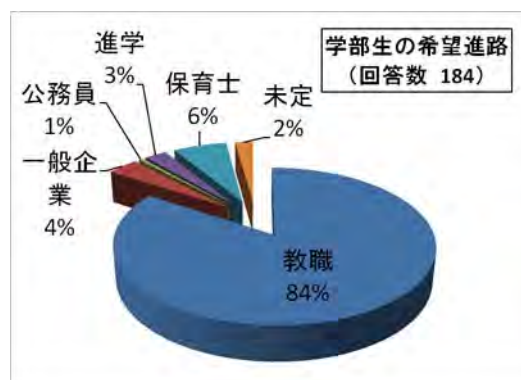


図7 学部生の希望進路

アンケートの「就職との関連」では、「将来」「就職活動時」「現在」の各時期に受講した講座が役立ちそうか聞いている。「教師・社会人になったときに、今日学んだことは役立ちそうである」、すなわち将来教員・社会人になってから、受講した講座が

役立つと感じた受講者がもっとも多かった。ただしこれも講座内容や、講師がどのような企図でその講座を行ったかにより、受け取り方も異なるはずである。今後、このアンケート項目については、企画段階で各講座が何のために役立つかを考慮したうえで、実際にその講座内容が、企画した者の意図通り受け止められたかどうか検証する方向へと変えたいと思う。

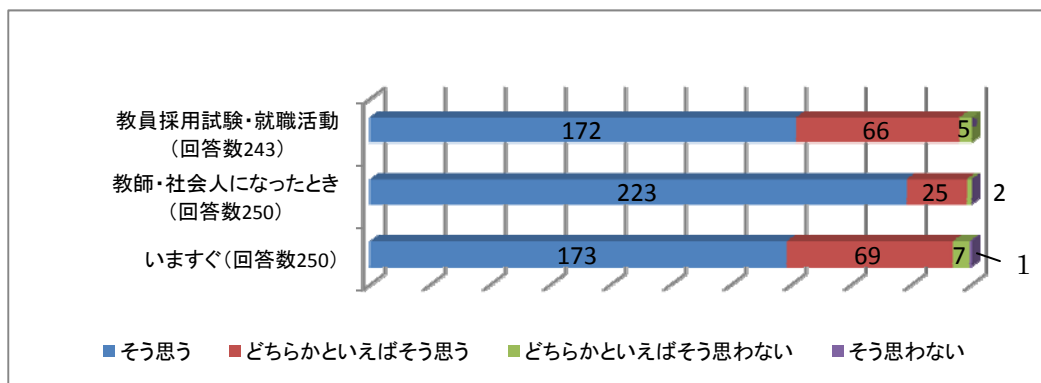


図8 講座が「教採試験・就職活動」「将来」「現在」役立つと思うか

4. 講座の長さ、希望の開講時間、土日の開講

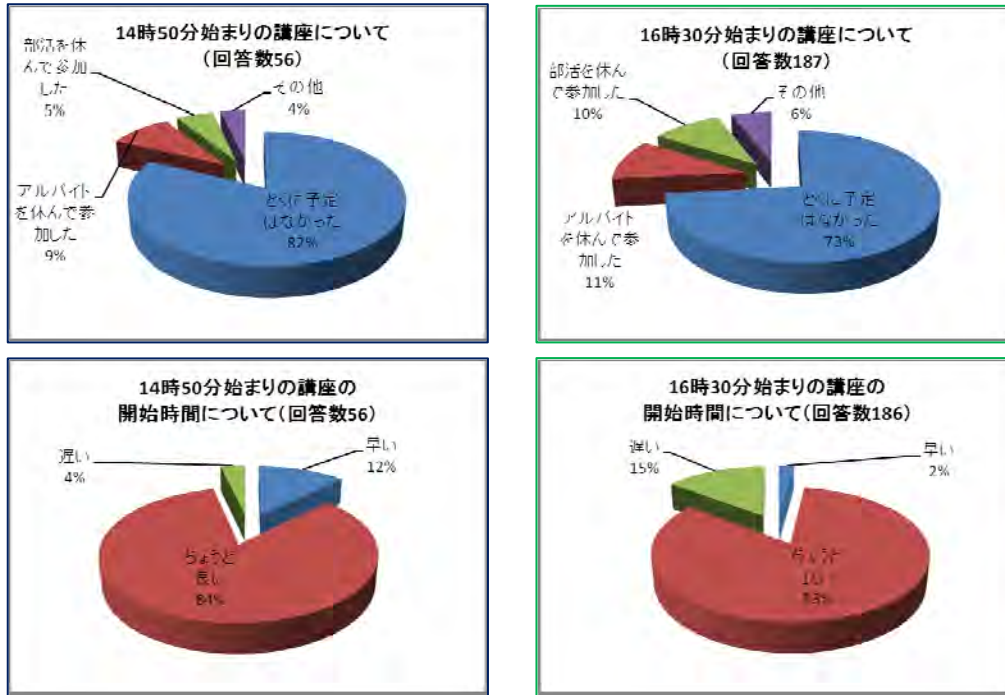


図9 講座の開始時間について

次に、講座の時間にクラブやアルバイトなどの用事があったかと、講座開始時間が早いか遅いか（図9）、講座の長さについてどう感じたか（図10）、講座を受けるとすれば何曜日の何時間からが都合が良いか（図11および図12）、講座を受けるとすればどれぐらいの長さが適当だと感じるか（図13）、土日に開講すれば受講するかどうか（図14）についてそれぞれ聞いた。

時間については感覚的に感じ取られるものであるため、本来はその講座の開始時間、内容、実際の講座の長さ、そして希望の講座の長さを関連付けて考察するべきであろう。ここでは、講座の開始時間と、クラブやアルバイトなどの用事があったか／開始時間が早いか遅いか、についてのみ関連付けて示すが、それ以外は個別に示す。学生がどれぐらいの長さで、何曜日の何時間目なら講座を受講する気になるかという目安として利用可能である。

講座の開始時間は14時50分（4限）か16時30分（5限）か（土曜日の講座を除く）であったが、いずれの時間についても、ほぼ同じ割合で、「とくに予定はなかった」となっており、「アルバイトを休んで参加した」も同じく1割程度であったが、

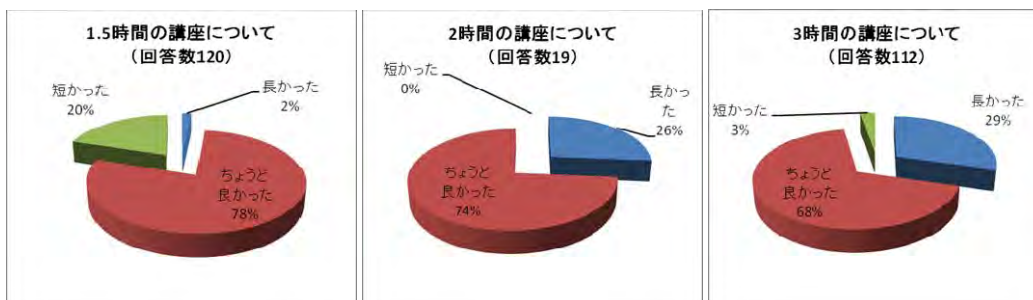


図10 講座の長さ

時間が遅くなれば「部活を休んで参加した」の割合が多くなった。

開始時間に関しては、いずれの場合にも「ちょうど良い」が8割以上と多く、自



図 11 講座を受講する希望の曜日・開始時間

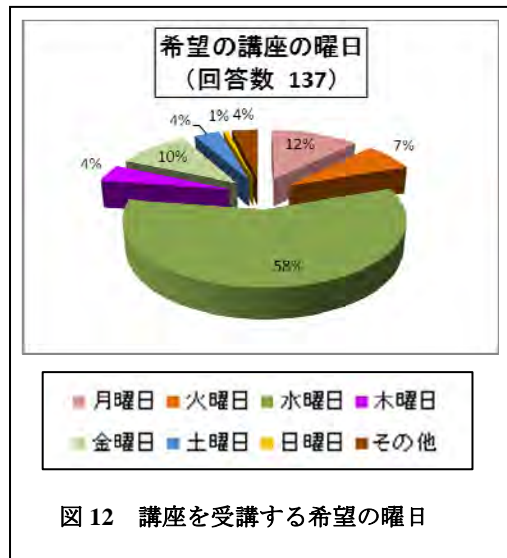


図 12 講座を受講する希望の曜日

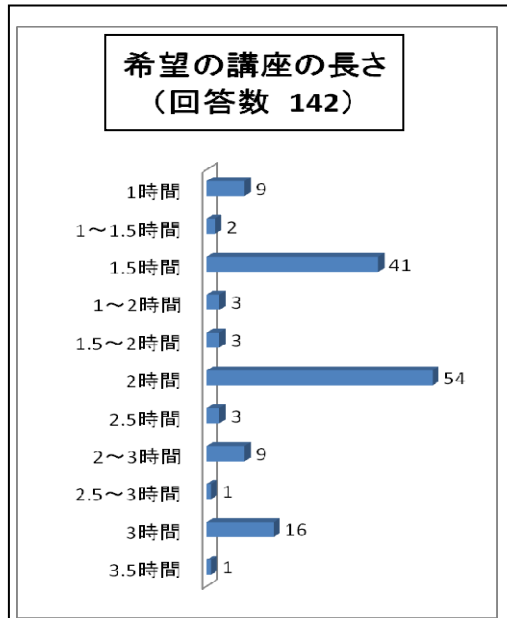


図 13 希望の講座時間の長さ

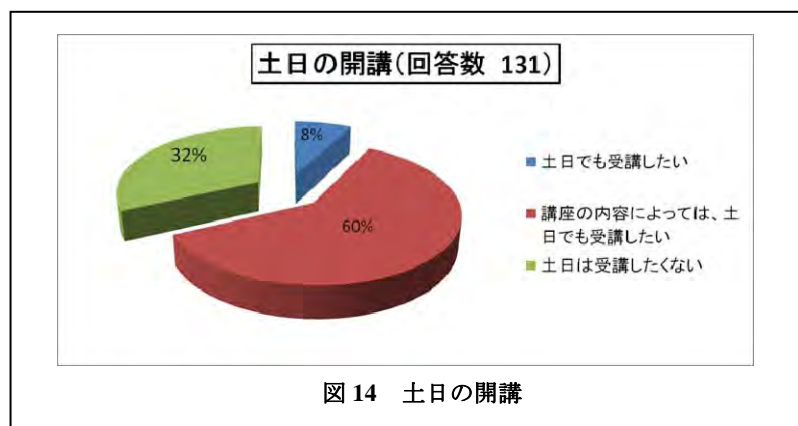


図 14 土日の開講

分の都合のつく時間で参加していることが分かる。14時50分開始では「早い」、16時30分開始では「遅い」が同程度いたが、時限の間に開始することは教室の問題等もあり、やはり4限または5限で企画するのが良いと思われる。

講座の長さに関しては、1.5時間、2時間、3時間のどの講座の長さについても「ちょうど良かった」が7～8割であったが、3時間の講座に関しては「長かった」という回答が3割程度あり、集中力を保つのは難しかったかも知れない。もっとも、2時間の講座でも「長かった」は26%いたため、やはり内容によって時間の長さを感じてしまったのかも知れず、内容を充実することで対処したい。

希望の開講時間に関しては、水曜日の午後に授業が組まれていないこともあり、水曜日という結果が多かったものの、かなり分散している。学生がどのような時間割（通学・授業・クラブ活動・アルバイト等）で活動しているかをすべて考慮することは不可能である。したがって、すべての学生に対して満足行く時間で開催するということは不可能なので、なるべく多くの学生が受講できるような時間設定をするために、この結果を利用したいと思う。

希望の講座の長さに関しては、1.5時間～2時間程度の回答数が多かった。

土日の開講に関しては、「講座の内容によっては土日でも受講したい」が6割と多かったが、土日は受講したくない学生も3割いた。

5. 今後の希望講座

もっとも多かったのが社会人基礎力養成に関する講座への希望である（図15）。コミュニケーション力やプレゼンテーション力などは、どのような職業にとってももっとも必要と言われているが、正課の授業のなかだけで身に付けることが難しいと学生には感じられているようである。その他、学校・教育現場の実情や保護者への対応に関する講座への希望が多かった。教員採用試験関連講座への希望も多く、各部署と連携しながらできることを企画していく必要があるだろう。知識・教養・文化を養成する講座と健康や心身に関する講座にも希望が寄せられた。今後学生の希望に添えるような講座を企画していく予定である。

6. 自由記述感想欄

アンケートの最後に、講座の感想を書いてもらった。多くの学生は、講座での学びを内省して、今後の励みにしたり、役立てようとしていたりしている。また、自由記述感想欄は講師の先生に送付し、講師の方々にとってもまた貴重な意見や励みとなっているようである。来年度よりeポートフォリオが導入されるが、この自由記述欄をポートフォリオに蓄積できるような仕組みを教員養成スタンダード開発室のメンバーとともに考えていきたい。

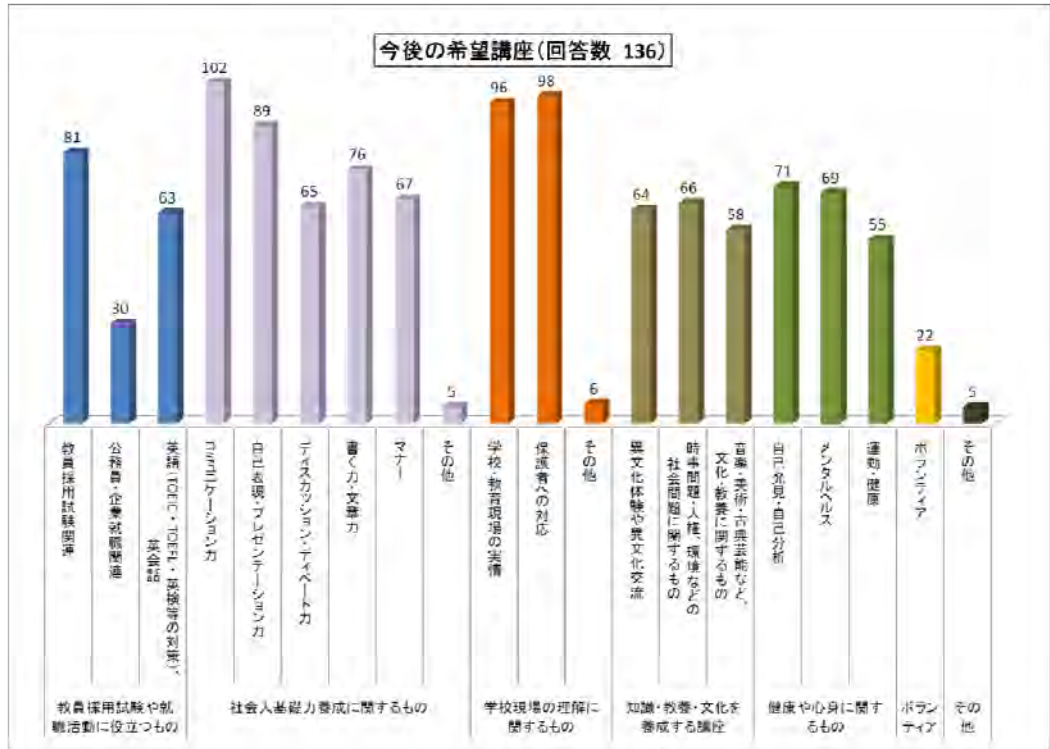


図 15 今後の希望講座

7. 平成 23 年度の計画

来年度は、希望が多かった社会人基礎力養成講座と教職準備講座は継続して行う予定である。また文章講座は初級と中級を開催する予定である。その他、自己理解・自己分析や食育等をテーマに企画を進めていきたいと考えている。学生のニーズに応え、必要なときに必要な支援を行えるよう、準備を進めていく。